

学校法人日本体育大学
125周年記念式典・祝賀会

学校法人日本体育大学
125周年記念式典・祝賀会

開催日時 平成28年6月18日(土)
11時～14時30分
開催場所 日本体育大学
東京・世田谷キャンパス
メインアリーナ

式典 開式：11時
開式の辞
国歌斉唱
式辞
来賓祝辞
祝電披露
特別功労者表彰
閉式の辞

祝賀会 開会：12時30分
開会挨拶
乾杯
実演発表 第1部
日体健康体操紹介
実演発表 第2部
閉会挨拶

特別功労者 日本体育大学功労スポーツマスター
加藤 廣志 (昭和35年卒) バスケットボール
渡辺 公二 (昭和35年卒) 陸上競技・駅伝
春藤 英徳 (昭和39年卒) バレーボール
山口 良治 (昭和40年卒) ラグビー
山口 彦則 (昭和42年卒) 体操競技
高嶋 仁 (昭和45年卒) 硬式野球



学校法人日本体育大学 理事長
松浪 健四郎

スタート台に立つ

日体大のキャンパスに建つ慰霊碑は、学徒動員の犠牲者たちの鎮魂目的で昭和33年に建立された。本学は、その碑に生花を毎日、欠かすことなく供えることを忘れない。

「平和」の尊さを旗印に、オリンピック・ムーブメントを普及・定着させる大学教育の実績は、燦然と輝き、125年の歳月を織ってきた。国民の体力、健康維持・増進のために果たしてきた役割は評価されていだろう。

「富国強兵」策の明治政府の期待に答えて以来、つねに時の政府の政策遂行に貢献してきた日体大の歴史は、あらゆる教育の場に人材を送り続けてきた特徴をもつ。単科大学でありながら、その存在感を示し得たのは、卒業生たちが真摯に教育活動に取り組んでくれたからに他ならない。

かかる伝統は継承され今日に至るが、現在の日体大は「からだにまつわる文化と科学の総合大学」へと進化している。「医療も日体大のフィールド」と捉え、保健医療学部も設置されている。

2020年のオリンピック・パラリンピック開催を受け、来春より網走市に日体大附属高等支援学校を開校する。すべての人たちに体育・スポーツ活動を楽しんでいただき、スポーツ立国の建設に寄与したいと考える。

世に魁て日体大は前進する。8万有余の卒業生ばかりか、国民に愛され信頼される高等教育機関でなければならぬと自戒する。

日体大の挑戦は、これからスタートを切る。



日本体育大学 学長
谷釜 了正

未来をみすえて新たなステージへ

学校法人日本体育大学は日本体育会として1891年8月に産声を上げ、1893年3月に日本体育大学の前身(日本体育会体操練習所)を開設して体育教員養成に本格的に着手し、大学とともに歴史と伝統を刻んで、現在にいたります。

この間、「体育富強之基」をスローガンに掲げて国の期待を一身に浴びながら青少年の体位・体力の向上のための事業や体育スポーツ振興の事業を担い、1900年には日本で最初にIOCが主催する会議に出席、1906年にギリシャのアテネで開催の中間オリンピックへの選手派遣の依頼を受けています。爾来、オリンピックとの関係を結びながら、大学を大きく発展させてきました。

1949年4月から新制大学として新たな歴史を刻むことになった日本体育大学は体育学部を通して学校体育教員を養成、卒業生たちは運動部を拠点にして日本を代表するアスリートを数多く育成しています。1964年10月の東京オリンピックは本学を日本のスポーツ振興を担う大学に成長させる契機となっています。

また1953年4月に女子の高等教育の受け皿として女子短期大学が開校され、2012年4月からはその短大を発展的に解消して男女共学の「児童スポーツ教育学部」が、その翌年には「保健医療学部」が増設されています。

21世紀を迎えてから、学校法人は大学を中軸にして法人が設置する諸機関(高校、中学、幼稚園、専門学校等)の改革を積極的に図るとともに、相互の連携を図って、揺るぎない一大学園を築き、125周年を迎えて新たなステージに立とうとしています。

日本体育大学

- 体育学部
 - 体育学科
 - スポーツ教育領域
 - 競技スポーツ領域
 - 健康学科
 - ヘルスプロモーション領域
 - ソーシャルサポート領域
 - 社会体育学科
 - 生涯スポーツ領域
 - スポーツマネジメント領域

- スポーツ文化学部
 - 武道教育学科
 - スポーツ国際学科

※平成29年4月開設予定

- 児童スポーツ教育学部
 - 児童スポーツ教育学科
 - 児童スポーツ教育コース
 - 幼児教育保育コース

- 保健医療学部
 - 整復医療学科
 - 救急医療学科

- 大学院
 - 体育科学研究科 体育科学専攻
 - 教育学研究科

※平成29年4月開設予定



学校法人日本体育大学 設置校



日本体育大学附属高等支援学校
平成29年4月開校予定

